



日本小児病理研究会 会報58号

平成24年11月14日 (水)

1. ごあいさつ

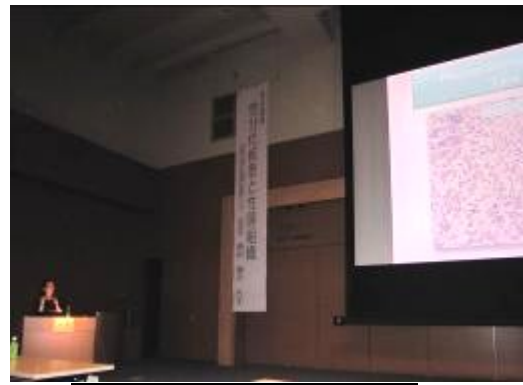
総務幹事 中山雅弘 (大阪府立母子保健医療センター)

平成24年9月6日 (金)、7日 (土)に、大阪市立総合医療センターにおいて、小児腫瘍組織分類委員会と日本小児病理研究会が開催され、多数の参加者での活発な議論が交わされ、盛会でした。

分類委員会では、群馬大学平戸純子先生を中心とした中枢神経系腫瘍の改訂作業が最終段階であり、今年度中の刊行を目指して報告がなされました。小児腫瘍症例検討会では、24題の一般演題の後に、田中水緒先生から小児肺・気道腫瘍性病変の概略および最近のトピックスについて講演いただきました。



小児腫瘍症例検討会



田中水緒先生の講演

翌日の第32回小児病理研究会では、特別講演には、大阪府立母子保健総合医療センターの島田憲次先生による「性分化疾患と性腺組織」、教育講演では、大阪大学病理学教室森井英一先生の「病理組織における腫瘍幹細胞の可視化をめざして」のテーマで講演していただきました。今回は主題として、性分化異常・性腺腫瘍などを本研究会で初めて取り上げ、この領域で日本の第一人者である島田憲次先生におねがいをした次第です。大変わかりやすく、また印象的なご講演でした。森井英一先生には腫瘍幹細胞のマーカーおよび腫瘍動態への意義などについて解説いただきました。主題演題は、7題で、それぞれ有意義なディスカッションがなされました。一般演題も11題あり、多岐にわたって興味深い演題が多数ありました。



中山雅弘学会長の挨拶



島田憲次先生



森井英一先生

小児病理研究会に引き続き、第9回小児病理セミナーを開催しました。発育期神経疾患の臨床と病理のテーマで、下記3名のこの分野を代表する先生方から、講演頂き、私自身も神経疾患の遺伝子診断の現状や新生児神経疾患病理の新しい観点からの見方など感銘を受けました。次年度は、中澤温子会長により、国立成育医療センターにおいて行われる予定です。尚、2014年の第34回日本小児病理研究会は、柳井広之先生（岡山大学）が主宰されます。テーマ等に関してご意見のある方は、新会長へご連絡ください。来年度も多数の参加をよろしくおねがいします。



学術集会終了後、中山雅弘会長から中澤温子次期学会長へ、日本小児病理研究会のシンボル“トーキングスティック”が伝達された

2. 第32回小児病理研究会学術集会報告

第32回日本小児病理研究会学術集会が平成23年9月8日（土）に中山雅弘先生（大阪府立母子保健総合医療センター 検査科）のお世話で、大阪市立総合医療センター さくらホールにて開催されました。今回の主題は性分化異常・性腺腫瘍などで多数の演題の発表が行われ、活発な討論が行われました。特別講演、教育講演の演者の先生とタイトルは下記の通りでした。島田憲次先生（大阪府立母子保健総合医療センター 泌尿器科）による特別講演、森井英一先生（大阪大学病理学教室）による教育講演もあり、会員一同大変興味深く拝聴しました。前日、9月7日（金）には小児腫瘍症例検討会が同じ会場で開催され、多数の参加者により活発な討議が行われました。



日本小児病理研究会・小児腫瘍症例検討会合同懇親会にて

3. 第9回小児病理セミナー報告

第32回日本小児病理研究会にひきつづき、第9回小児病理セミナーが開催されました。講師およびタイトルは以下の通りでした。

講師：伊東恭子先生（京都府立医科大学 分子病態病理学）

「胎児水頭症の分子病理学的検討—L1camの機能解析—」

加藤光広先生（山形大学 小児科学）

「新しい疾患概念—介在ニューロン病について」

島田厚良先生（愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所 病理学部）

「重症心身障害者にみる白質傷害の病理」



伊東恭子先生



加藤光広先生



島田厚良先生

4. 幹事会・総会

平成24年9月7日（土）に日本小児病理研究会幹事会ならびに総会が開催された。

1) 平成22年度会計報告および平成23年度予算案について事務局より下記の報告が、藤本純一郎監事の監査結果を添えて呈示され、承認された（後掲）。

2) 第102回日本病理学会におけるコンパニオンミーティングについて

平成24年6月6日から8日の3日間、札幌で開催される第102回日本病理学会学術総会におけるコンパニオンミーティングについて井上學術担当幹事より参加の提案があり、幹事会で承認された。

3) 第32回日本小児病理研究会について、中山雅弘学会長より研究会の状況が報告された。

4) 第33回日本小児病理研究会学術集会・総会について、中澤温子学会長（国立成育医療研究センター）より平成24年8月31日（土）に東京にて開催を予定しているとの報告があった。また、前日の8月30日（金）に小児腫瘍症例検討会が予定されている。

5) 第33回日本小児病理研究会副学会長として柳井広之先生（岡山大学病院病理診断科）が推薦され承認された。

6) 中山総務幹事より研究会から学会への移行の提案があり、調査、準備を行うこととなった。

5. 地区集会のお知らせ

第130回

関東東海地区小児病理カンファレンス

2013年2月1日（金）午後5時30分から

於；

国立成育医療研究センター

世話人；

国立成育医療研究センター病理診断部

中澤温子先生

第68回

関西小児病理研究会

2012年12月22日（金）午後1時30分から

於；

大阪市立総合医療センター大会議室

世話人；

大阪市立総合医療センター

井上 健先生

6. 日本小児病理研究会平成23年度会計報告(平成23年4月1日-平成24年3月31日)および平成24年度予算案

平成23年度会計報告

平成24年度予算案

収入の部		収入の部	
会費	425,000円	会費	300,000円
前年度繰越金	531,166円	前年度繰越金	612,369円
郵便貯金利息	178円	郵便貯金利息	150円
寄付(岸本宏志先生)	50,000円		
小計	1,006,344円	小計	912,519円

支出の部		支出の部	
第30回学術集会補助	300,000円	第32回学術集会補助	300,840円
会報発送費(54, 55, 56号)	20,880円	会報送料(3号分)	25,000円
コンパニオンミーティング講師料	70,000円	IPPA会費(2011, 2012年)	35,000円
		事務費	5,000円
事務費	3,095円	ホームページ管理費	50,000円
小計	393,975円	小計	415,840円
次年度繰越金	612,369円	次年度繰越金	496,679円

7. 事務局より

第32回小児病理研究会(大阪)には多数の先生にお集まりいただき、ありがとうございました◇来年以降もより一層活発な発表、討論が行われることを期待します◇来年度の学術集会は第8回アジア太平洋IAP(9月5-8日韓国)のため久しぶりの8月開催(平成25年8月31日)となります◇IPPAを含め国際学会の情報提供も行って参ります◇今年度も多くの先生方より会費を納入していただきありがとうございました◇研究会から学会への組織改組について事務局で調査・検討して参ります◇ご意見があれば事務局までお知らせ下さい。

日本小児病理研究会会報58号
平成23年11月14日発行
編集・発行 松岡健太郎
日本小児病理研究会事務局
<http://jspp.info/>
〒157-8535
東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター
病理診断部病理診断科
TEL (03)3416-0181
FAX (03)5727-2879
E-mail matsuoka-k@ncchd.go.jp